日本の正月

動画リンク：https://youtu.be/tfuH5YJlYCM

日本の正月

今回は「日本の正月」について学びながら日本語を勉強しましょう。

■はじめに

「もういくつ寝るとお正月」これは童謡「お正月」の歌詞の冒頭部分です。子供が、あと何回寝たらお正月がくるのかなと楽しみにしています。

新年になる日はどの国にとっても特別ですが、日本人も1月を正月、1月1日を元日、元旦と名付けるほど特別視しています。

今回は、日本人がどのように正月を迎えているのかを紹介します。

また、この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」がついています。
後半は少しだけ速くなり、漢字に「ふりがな」はありません。
学習にお役立てください。

それでは早速「日本の正月」について学びながら、日本語を勉強していきましょう。

■正月の定義

正月の定義は複雑ですが、最も単純な定義は「1年の最初の月」です。つまり正月は1月1～31日のことです。

正月は元々、行事の名称でした。農作物の神様である歳神様をお迎えする行事のことを正月といいます。

家庭で正月に花を飾るのは歳神様をお迎えするためです。歳神様は正月に家々を訪れて1年分の福徳を与えてくれます。

正月には、神様と人をつなぐ植物とされる松も飾ります。竹と一緒に飾りつけた松を門松といいます。

ただ忙しい現代人は1月中ずっと行事をしているわけにもいかないので、1月1日から10日ぐらいまでのことを正月と呼ぶこともあります。

1～3日を「三が日」、1～5日を「五かん日」、1～7日を「松の内」といいます。それで大体10日ぐらいまでを正月とするわけです。

会社員や学生が正月休みが終わってものんびりしていると、周囲の人から「正月気分が抜けていないぞ」と注意されます。

■正月の料理

日本人は正月に特別な食事をします。最も有名なのは、お節料理と餅です。

お節料理は元々、節目の日に食べる特別料理のことでしたが、今はお節といえば正月の豪華料理のことを指します。

正月にお節料理を用意する目的は、家族みんなで豪華な食事を楽しむことですが、もう一つ、主婦を休ませる目的もあります。

お節料理を12月中につくっておけば、主婦も正月に料理をせず休めるわけです。しかしこの説明は少しおかしいですよね。

確かに主婦はお節料理によって休めますが、12月は普段より多く料理することになります。しかも休めるのは1月初旬だけ。

お節料理はさまざまな食材を使ってたくさんのおかずをつくります。重箱という四角い容器を複数個重ねた容器のなかに入れます。

お節料理のおかずにはめでたい意味があり、魚卵の数の子は子孫繁栄、昆布巻きは喜ぶ、栗きんとんは財産、紅白のかまぼこは日の出です。

お節料理は家庭でつくるものでしたが、核家族化で料理のつくり手が減り、それができなくなりました。今は買う人が多い印象です。

餅は、もち米を炊いて潰して粘っこい塊にしたものです。表面に醤油を塗ったり、なかにあんこを入れて食べたりします。

餅は平安時代に神様に捧げる食べ物として使われました。そのありがたさから、一般家庭で正月に食べるようになりました。

餅は粘っこいので長く伸びて切れることがありません。これが長寿を象徴することから、正月に食べて向こう1年の健康を祈願します。

スーパーマーケットは12月になると、大量の餅を商品棚に並べます。普通は、買った餅を焼いて食べます。

正月に餅つきをすることがあります。大きな木の器である臼に炊いたもち米を入れ、木の棒である杵でついて餅にします。

■子供に現金を配るお年玉

お年玉は、正月に大人が子供に現金を配る風習です。親が自分の子供にあげることも、大人が親戚の子供にあげることもあります。

富裕層のお年玉では1件当たり1万円を超えることは当たり前で、1回の正月で何十万円も獲得する子供もいるほどです。

お年玉は昔は、現金ではなく餅でした。神様にお供えする特別な餅である鏡餅を、神様が帰ったあとにみんなでわけていました。

お年玉が鏡餅から現金に変わったのは戦後間もなくの高度経済成長期の頃といわれています。「現金な世の中」になったものです。

■数少ない大型連休

最近は日本の労働者もだいぶ休むようになりましたが、かつては長時間労働が当たり前で、正月は貴重な大型連休でした。

企業や役所などの正月休みは1月1日の前後10日ほどで、この間、日本人は大移動を行います。それが帰省です。

帰省は、家族総出で親の故郷に行く旅行です。都会の地方出身者たちが正月に一斉に帰省するので交通機関が大変混雑します。

帰省による交通機関の大混雑のことを帰省ラッシュといい、高速道路は何十kmも渋滞し、新幹線には定員の130%もの人が乗り込みます。

正月休みの終盤は帰省した人たちが都会に戻るので、また交通ラッシュが起きます。休みなのに人々は帰省によって疲弊します。

長期休暇が少ない日本では、正月休みは海外旅行のチャンスです。正月休みに海外に行く日本人は60万人近くになります。

正月休みを怠惰にすごす人もいます。自宅のソファに寝転がって、テレビで映画をみたりゲームをしたりします。これを寝正月といいます。

■年越しと除夜の鐘

12月31日24時ちょうどと1月1日0時ちょうどは同時刻ですが、旧年と新年の違いがあります。この時刻をまたぐことを年越しといいます。

年越しは世界中でイベントが行われますが日本では神社で除夜の鐘が鳴らされます。神社の釣鐘が108回つかれます。

108は煩悩の数とされ、これを取り除いて新年に臨むために除夜の鐘をつくわけです。煩悩とは悪い心のことです。

除夜の鐘を聴くために、多くの人が1月1日0時ちょうど前後の夜中に神社を訪れます。

■初詣

神社に行って神様にお祈りすることを詣でるといい、正月に、その年の最初に詣でることを初詣といいます。

日本人は初詣を重視していて、日本最大級の神社である明治神宮には毎年300万人が初詣に訪れます。各地の小さな神社も混雑します。

人々は初詣で神様に、さまざまなお願い事を申し出ます。例えば、家内安全、無病息災、交通安全、商売繁盛、縁結び、合格などです。

■年賀状

年賀とは、日ごろの感謝を伝えて、新年を祝う言葉で挨拶する正月の風習です。年賀の気持ちをハガキに込めたのが年賀状です。

年賀状の形態はハガキでなくてもよいのですが、ハガキの年賀状は歴史があり、しかも安価です。年賀状といえばハガキになりました。

年賀状には「謹賀新年」と書いたうえで「今年もよろしくお願いいたします」「今年は会いたいですね」といったメッセージを添えます。

日本の郵便事業を担う日本郵便株式会社は年賀状事業に力を入れています。年賀状が1年間の郵便物の10～15%を占めるからです。

日本郵便は年賀状向けの特別サービスとして、前年の12月25日までにポストに投函すれば1月1日の朝に届けるようにしています。

日本郵便は年賀状用のハガキを年14億枚販売しますが減少傾向にあります。メールやSNSで新年の挨拶を済ませる人が増えたからです。

■正月のスポーツ1駅伝

正月のスポーツ観戦といえば駅伝でしょう。駅伝は日本発祥のランニング競技で、複数人がリレー形式で道路上を長距離走ります。

箱根駅伝の愛称で知られる東京箱根間往復大学駅伝競走は、関東の21の大学チームが正月の2、3日に計約220kmを走破します。

箱根駅伝は100年以上の歴史があり、多くの国民に愛されています。中継するテレビ番組は毎年高視聴率を記録します。

東京＝箱根（神奈川県）間の国道を一部閉鎖して行われる箱根駅伝はダイナミックで、沿道には多くの人が応援と観戦に押し寄せます。

見所は抜きつ抜かれつのデッドヒートです。1人が走る距離は約20kmでフルマラソンの半分ほどなので迫力ある高速走行を楽しめます。

10代後半から20代前半の男子が大学の威信をかけて激走する姿はとてもすがすがしいものですが、ひとつ残念なことがあります。

箱根駅伝は全国的な知名度を誇りますが、出場できるのは関東学生陸上競技連盟に加盟する大学だけ。つまり関東の地方大会なのです。

箱根駅伝の前日の1月1日に開かれるのが全日本実業団対抗駅伝、通称ニューイヤー駅伝です。群馬県で開催される全国大会です。

ニューイヤー駅伝に参加するのは企業チームで、選手は企業の従業員です。全国の地区予選で勝ち抜いた約40チームが出場できます。

■正月のスポーツ2サッカーなど

高校サッカーの最高峰、全国高等学校サッカー選手権大会（以下、全国高校サッカー大会）は12月から翌年1月にかけて開催されます。

全国高校サッカー大会に出場できるのは各道府県から1校ずつと東京都から2校の計48校です。サッカー版甲子園といったところです。

プロの最高峰、天皇杯全日本サッカー選手権大会の決勝戦はかつて元日に行われていましたが、今は12月に変更されました。

天皇杯が元日に行われないようになったのは、この時期に開かれるサッカー大会が多く、選手の状態管理が大変になるからだそうです。

天皇杯は天皇からたまわった記念杯、という意味で、宮内庁が認定します。天皇杯は競馬や農業技術大会にもあります。

アメリカンフットボール日本選手権ライスボウルや全日本バレーボール高校選手権大会、全国高校ラグビー大会も1月上旬に開かれます。

■正月のビジネス

一年の計は元旦にあり、1月1日にその年の計画を立てると成功する確率が上がるという意味です。企業にとって重要な格言です。

初売りとは、その年の最初の営業のことで、これを1月1日に行う会社や店もあります。

正月三が日（1月1～3日）は休む店が多いので、元日の初売りはインパクトがあり、客を集めやすいというメリットがあります。

元日初売りは、みんなが休んでいるときに働けば儲けられるというビジネス・スピリッツから生まれた販売戦略です。

ただ1月1日に営業することは従業員への負担が大きいので、最近は初売りを2日や3日にずらす企業も増えています。

福袋は小売業の正月ビジネスの目玉です。袋にいろいろな商品を詰めて中身を明かさず格安で販売します。客はワクワクします。

■廃れた印象がある正月の伝統行事

最近はあまり見かけなくなった正月の伝統行事を紹介します。まず羽根つきですが、これはバドミントンのようなゲームです。

羽根つきは、2人が少し離れて向き合って、羽子板という木製のラケットで、種に鳥の羽をつけた羽根を打ち合います。

羽根つきには罰があり、羽根を落として失敗すると、顔に墨を塗られます。少しひどいルールかもしれませんね。

羽根つきには、羽根を打つことで邪気を祓うという意味があります。邪気とは病気を起こす悪い気のことです。

凧揚げは竹でつくった骨組みに紙を貼った凧に、糸を結んで引っ張って風の力で空に飛ばす遊びです。和製カイトです。

凧はグングン空に昇っていくので、凧揚げは子供の成長を象徴しています。それで子供の1年の成長を願って正月に飛ばすわけです。

百人一首かるたは日本の伝統的なカードゲームで、2人で100枚のカードを取り合います。カードには和歌という詩が書かれています。

和歌は上の句と下の句にわかれていて、読み手が上の句を読み、2人が下の句が書かれたカードを取り合います。多く取ったほうが勝ちです。

書道は、筆を使って文字を美しく書く芸術活動です。1月2日に書道を行うことを書き初めといいます。

書き初めには、字が上達することを祈願する意味があります。また1年の抱負を書くことで気持ちを新たにします。

■正月の珍しいイベント

正月に行われる珍しいイベントを紹介します。まず、寒中水泳ですが、これは1月の冷たい川や海で泳ぐことです。

寒中水泳は泳ぐスキルを高めるためではなく、精神や根性を鍛えるために行います。慣れていないと冷たさに驚いて溺れることもあります。

次に、福男選びです。兵庫県にある西宮神社で毎年1月10日、福男選びという短距離走大会が開かれます。境内の230mを激走します。

福男選びに出場できるのは先着1,000人ほど。そのなかで抽選で前列でスタートできる108人を選びます。

午前6時に神社の門が開くと全員が猛ダッシュします。230mを走って本殿に最初に到着した人がその年の福男になります。

福男になると1年分の福を受け取ることができ、福男はそれをいろいろな人に分け与えなければなりません。なお、女性も参加できます。

あなたの国の正月についても、コメント欄から是非みんなに教えてください。

「日本の正月」は、いかがでしたか？

今後の動画制作に活かしますので、コメント欄から感想いただけると大変嬉しいです。

それでは、また別の動画で お会いしましょう。

Japanese-listening-SUSHI